

昇華

南魚沼市立六日町中学校

三年 大塚 英玲奈

今年、3年ぶりの受験生。3年前の中学受験では、良い思い出もあまり良くない思い出もたくさんあった。高校受験ではあの時と同じ思いは絶対にしたくない。これは、3年前に中学受験生だった私の、昇華の場だ。受験期を振り返ると、小学生だったのによく頑張っていたな、とつくづく思う。塾には週三回通っていた。2学期は長岡にある校舎にまで電車に乗って足を運んだ。六日町校での授業は楽しかったし、一緒に受験する同期とも、塾の先生とも仲が良かった。長岡での授業は正直窮屈に感じたが同期がいたから頑張れたし、宿題だって一度も忘れることはなかった。面接練習では、自分の意見を短い時間でまとめ、相手にしっかりと伝える技術を学んだ。私は今六日町中学校の生徒会長である。

り、人前で話をする場面がたくさんあるが、
そんなの想像出来ないくらい小さい頃の私は
人見知りで、いつもお母さんの後ろに隠れて
いた。そんな私が変わった明確なきっかけは
恐らく、面接練習だったと思う。
授業も、宿題も、面接練習も、全て真面目
に取り組んだ。しかし、きつとそんなの努力
とは言わなくて、全て受動的なものだった。
努力や継続という作業が苦手で、何かをコツ
コツ続けることができなかった。まともに受
験勉強をしないまま、同期達に「受験勉強つ
て何してる？」なんて聞けない季節になって
いた。
入試を経て迎えた合否発表の日。玄関の前
に張り出された紙にずらりと並ぶ数字の中に
私の受験番号はあった。∞番。何か感情が込
み上げてくる前に、1人の同期が少し遠くで
私の視界の端に映った。今までに見たことが
ないくらい嬉しいそうにお母さんと掲示板を指
差して笑っている。彼は同盟の中でいつも1

番の成績だった。きっと私の知らないところ
でずっと努力していたのだと、そのとき初め
て気が付いた。それを見たら、ああ、私はそ
んなに純粹に喜ぶことは出来ないなと思っ
周りには心の底から嬉しそうに感激の声をあ
げる人や、涙ぐむ人達。努力もせずに受かつ
た私は、場違いでしかなかった。合格を素直
に喜べないことが惨めで仕方なくて、逃げて
しまいたかった。
そんなことがあって、私は入学を辞退した
諦められる、結局その程度だったのだ。貴重
な一つの席だったのに。私のせいで落ちた人
がいるかもしれないのに。幼稚で、身勝手極
まりない選択だと重々承知している。正直、
いつ辞退することを決めたのか、それをどん
なふうに同期や先生に伝えたのか、全く覚え
ていない。人間都合の良い生き物だと思っ
事実上、私は受験に合格した。でも、努力
のできない私の腐った精神のせいで受験には
失敗した。私はこのことをしつかりと受け入

れなければいけない。負け犬だと、開き直つて認めた上で同じことを2度も繰り返し返さないよう、日々の学習に励んでいく。それでも、学びが何もなかったという訳ではない。私は受験を通して自分に自信がついた。生徒会長にだってなれた。きつと私なら何でも出来るし、後悔だけはしたくない、そう思うことができた。努力は必ず報われるとか、結果より過程が大事だとか、そんなことが言いたいのではない。失敗かどうかは分からない。それでも、生き残っている限り、私のこのプライドが廃れない限り、そこを見据えて自分の能力を更に伸ばしたり、欠点を補ったりする必要があるのだと思う。それを怠り、達成感の伴わない成功体験をしてしまえば、遅かれ早かれいつか絶対的に綻びが生じる。私はたまたまそれが早かったから、知ることができた。綻びが生じるの

を防ぐ1番の処方箋はきっと“努力”なのだ
と。努力は目標を達成するための手段である
と同時に、達成したときの嬉しさだから、達
成できなかった時の悔しさのためのものだ。
そのようなかかけがえのない感情が伴うからこ
そ努力という行為は輝く。不格好でも良い。
泥臭くても良い。本気になれなかったときの
後悔に比べたらそんな比ではない。だから
私は、努力のできる人になりたい。シャーペ
ンを握りしめて問題に向き合って、目一杯頭
を悩ませたり、不思議に思ったことをとこと
ん調べ尽くしたり、現状に満足せず常に向上
心を持ち続けていく。そんなふうに努力をし
て、受験に合格して、今度こそ心の底から笑
いたい。3年前の私を見返してやりたい。苦
手だった努力を武器につけてみせたい。
次の冬、私は3月の勝者になることを、こ
こに宣言する。